



**特集** 化学メーカーとして保安に万全を期し、安全・安心を分かち合うために

# 人財育成のために

～一人ひとりの意識向上でさらなる保安に努める～

荒川化学グループでは、設備・制度面での保安を図る一方、従業員一人ひとりが安全・安心に対する意識の向上に努めています。また、防災意識を高めることで、地震などの緊急時に備えています。

## ■ 安全教育の継続的な実施

荒川化学グループでは、独自の教育訓練スケジュールによる、徹底した安全教育を実施しています。設備の操作手順から危険物・有害物や保護具の取り扱い、危険に対する意識を高めるKY(危険予知)活動の他、「ヒヤッとした」「ハッとした」事例を表にした「ヒヤリハット提案」を提出し共有しています。また、部門に応じて安全に関するセミナーなどを継続して開催。全社をあげて安全意識の向上に努めています。



設備の内部構造を学ぶ教育施設  
指差し呼称の徹底

## ■ 防災訓練の実施

各事業所では、「危機管理マニュアル」に基づき、年間計画を立てて防災訓練を繰り返し実施するとともに、近隣他社や地域の消防署と合同訓練を計画して、地域と連携した防災訓練を実施しています。

## ■ 保安意識と技術の伝承

保安対策の一環として、荒川化学グループでは、マンツーマンでの技術指導や、設備の操作に関する手順書の作成をおこなっています。加えて、ベテラン従業員が培ってきたノウハウを文書として残し、後進に伝えることで、保安意識と技術の伝承に努めています。具体的には、「技術の伝承シート」と呼ばれる文書を作成。これによって、技術的な裏付けを踏まえて、製造時に想定されるリスクや、万一の際の対処法などをわかりやすくまとめています。

### Voice

大阪工場 製造第二課  
有本 和弘

### 『心をつなぐ』コミュニケーションで 保安力を高める

生産現場では、約10年にわたって安全管理の基本である「5S※」を徹底することを目指してきました。そして現状に満足することなく、一人ひとりが安全への意識を高めていくことで、事故の防止に努めています。また、地域の方々との交流を通じて、ご意見を真摯に受け止めることによって、より安全な工場を目指したいと考えています。

※5S…整理、整頓、清掃、清潔、しつけ

## ■ サプライチェーン全体で安全を確保

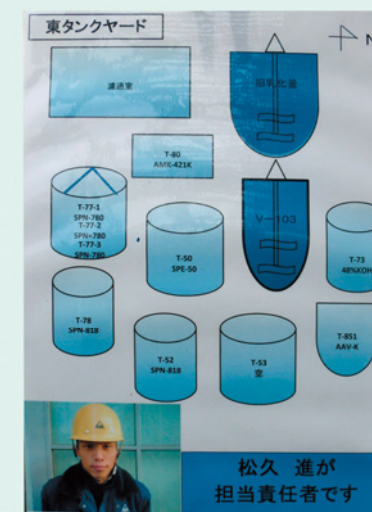
グループ内での保安対策にとどまらず、協力会社を含めて、サプライチェーン全体で業務の安全な遂行を追求しています。特に、原料や製品の輸送時における安全を確保するため、外部の物流会社と協力会社会議を開催。情報交換を定期的実施することによって、安全面に関する課題や対策について取り組んでいます。



全国物流安全会議

## 工場での意識向上の取り組み

### ■ 大阪工場



ヒューマンエラー防止活動推進委員会を毎月開催して、ヒヤリハット、リスク評価改善ステップ計画書、ヒヤリ改善パトロールなど、設備改善を主な対策としてトラブル予防活動を実施しています。また、日頃から「5S活動」を積極的に推進し、生産現場の整理整頓を徹底することで、事故が発生しにくい環境づくりをおこなっています。

設備ごとに持ち場の担当者名と顔写真を掲示。安全に対する意識の向上を図っています。

現場には、ヒヤリハットなどの注意を喚起する表示を掲示して、事故予防を図っています。



### ■ 水島工場

事故事例研究会を定期的開催しています。他の化学メーカーの事故事例の内容を検討し、自工場に類似点があれば自工場の状況を確認して必要な場合には対策を実施します。出席者は、研究会の資料(事故から学んだ点、自職場での問題点、我々はこうする)を作成して安全に対する意識向上に役立てています。

### ■ 小名浜工場

新プラントの建設・稼働時には、関連する事業所に講師の派遣を要請します。技術指導を受けて設備の操作に関する手順書を作成するとともに、関連事業所のベテラン作業員のノウハウも含め、運転技術が確実に伝承されるようにしています。また、各種社外労働安全衛生教育への参加をおこなうことで、安全に対する意識の向上を図っています。

### ■ 富士工場

東海地震を想定した総合防災訓練をおこなうなど、大規模な防災訓練を定期的におこなっています。また、富士市の小型ポンプ操法大会に毎年出場し、2010～2012年は3年連続で優勝するなど、消火技術の向上を図っています。

### 大阪工場での発煙トラブルについて

2013年1月23日、6時10分頃、大阪工場(研究工場)にて発煙事故が発生しました。出火、ケガ人などは出ておりませんが、発煙による異臭が発生しました。近隣の皆様ならびに関係者の皆様には大変ご迷惑、ご心配をおかけしましたこと、深くお詫び申し上げます。消防指導のもと、設備・安全教育の両面から再発防止に取り組んでいます。